

## お客様とのコミュニケーションで進める 環境対応商品開発



取締役執行役員 工業塗料部門長

江見 眞

ここ数年間、我が国の経済は穏やかな回復基調にあったものが、ここに来て急激に先行きが不透明になってきました。米国の金融問題に端を発した急激な円高と株安、さらに中国をはじめとする新興国の急成長とこれらにともなった原油や穀物等の高騰などが引き金となって、石油二次製品や金属材料など塗料に欠かせない諸原料価格の高騰など塗料塗装業界にも大きな影響が及んでいます。

一方、地球環境の問題に対する危機感はさらに高まり、この7月の北海道洞爺湖サミットでは、2050年の二酸化炭素50%削減ビジョンを、米国を含む先進国間で共有することに合意しました。また化学物質の管理に関する世界的な規制はさらに厳しさを増し、REACHの仮登録が始まり、国内においては化審法や化管法の改正作業が進められております。塗料業界が取り組んでいるVOC削減計画は、懸命に注力しているところですが、これを加速させ期待する成果を出すためには尚一層の努力が必要です。

弊社は、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行うレスポンスブル・ケア活動の推進により、環境問題や化学物質の管理などに取り組んでまいりました。また環境対応技術開発を研究の中心に据えて基盤技術の開発を進め、粉体塗料や水性塗料など環境負荷を大きく低減させる塗料を業界に先がけ開発し、多くの商品を提供してまいりました。そして現在、2009年度中に環境対応商品の品揃えを完了させることを目標に掲げ、全社を挙げて取り組んでおります。一口に環境対応商品といってもVOCの低減方法にも水性化、粉体化、ハイソリッド化等種々の技術があります。さらにお客様の要望も用途によって要求品質等が多岐にわたるため、用途毎の段階を踏んだきめ細かな商品の開発が必要であります。このような開発は、メーカーの研究室の中だけでできるものではなく、お客様をはじめ販売や塗装に携わる方、原料メーカー様など塗料に係わる皆様方からの声を合わせて初めて生まれてくるものであります。また、この先行き不透明な時代こそ、このコミュニケーションが重要となってくるのではないかと考えております。

DNT技報第8号をお届けします。今号も環境対応商品や技術の開発を主なテーマとしております。この技報がお客様とのコミュニケーションの一助となり、市場のニーズや皆様方のお考えをお教えいただける契機となれば幸いです。

平成20年10月